

報 告 書

2021年8月27日

活動実施団体名

むつ市海と森ふれあい体験館
南三陸町自然環境活用センター

責任者名

むつ市海と森ふれあい体験館 館長 高屋龍一

報告書作成者名

むつ市海と森ふれあい体験館 スタッフ 小池拓矢

1. 活動の名称 (タイトル・テーマなど)

海の大川が育む豊かさを探る～イルカが跳ね、海藻がそよぐ海を訪ねて 交流会

2. 実施日

2021年8月5日 (木)

3. 実施場所

むつ市立脇野沢小学校・南三陸町自然環境活用センター (zoomを用いた交流)

4. プログラム等

9:00～

・はじめの会

・アイスブレイク

脇野沢の子どもたちと南三陸町の子どもたちがじゃんけんをしながら自己紹介

・発表会

脇野沢小はカマイルカの生態や脇野沢周辺の見どころなどを紹介

南三陸町は干潟の生き物調査などの南三陸少年少女自然調査隊の活動を紹介

9:55～

・海藻押し葉づくり体験

南三陸町自然環境活用センターの阿部拓三氏の指導のもと、志津川湾で採れた海藻の押し葉で葉づくりの体験を行った

・お別れの会

両地域の児童が1名ずつ感想を発表した

5. 対象・参加人数（内訳）

むつ市立脇野沢小学校児童：12名

南三陸少年少女自然調査隊：6名

6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

6月に南三陸少年少女自然調査隊の子どもたちが脇野沢に訪問した際は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、両地域の子どもたちの直接の交流は叶わなかったため、今回が初めての顔合わせとなった。

自己紹介からはじまり、脇野沢小学校はカマイルカや地域について自分たちで調べたことや描いた絵の発表、南三陸少年少女自然調査隊はスライドを使って、ラムサール条約湿地である志津川湾の調査結果などの発表をした。海藻の押し葉の葉づくりでは、海藻を魚の形に切ったり、何回も配置をやり直したりしながら完成させた作品を両地域の子どもたちが紹介しあうなどして、交流会は終始和やかに進んだ。多少音声聞き取りづらいことなどもあったが、zoomを用いた交流にも大きなトラブルはなかった。

両地域の子どもたちからは、「普段会うことのできない離れた場所にいる人たちと一緒に葉作りができて楽しかった」という感想をもらうことができた。最後に脇野沢小学校の校長先生から、今日の交流をはじめりとして、今後も両地域で交流を続けていきたいというあいさつで、今回の交流会は締めくくられた。

